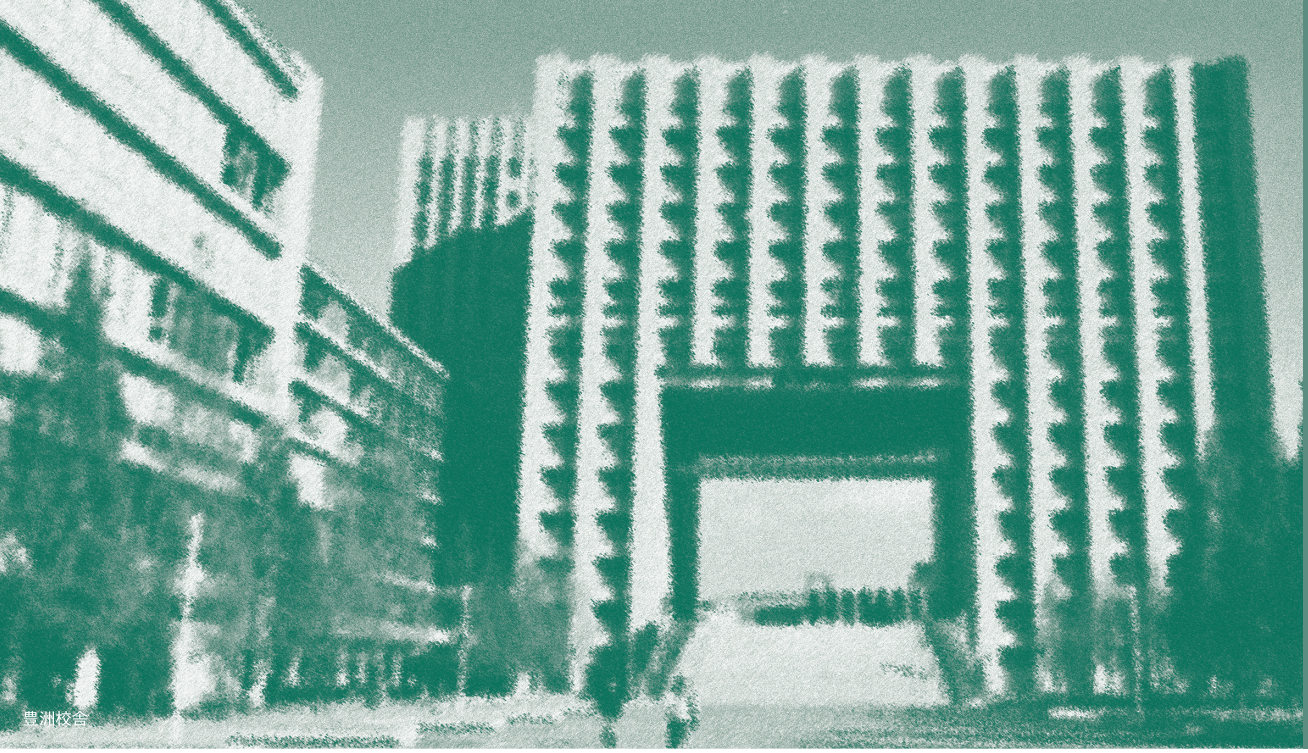


建築学科卒業生たより
芝浦工業大学
建築会
vol. 33
2017年11月

芝浦工業大学建築会
135-8548
東京都江東区豊洲3-7-5
TEL. 03-5859-8400
FAX. 03-5859-8401
http://sit-arch.com

建築会の今後に向けて

建築会 会長
枝広英俊（一九七一年卒）

建築会は、会報「建築学科卒業生たより」を発行し始めて、本号で三十三号を数えることになりました。これまでの関係教職員や建築会役員およびご執筆頂いた卒業生の皆様には、改めて心から感謝申し上げます。建築学科の卒業生も年々増加し、二〇一七年三月までに約七千名の大学学部卒と約二千数百名の修士修了生を輩出してきました。その中で、近年では会費や寄付金を納入して頂いた方をはじめ、住所が判明している方に限定し、およそ四五〇〇～四六〇〇通の卒業生だよりを郵送させて頂いております。本年も従来と同様に送付させて頂きましたので、同窓の方々の近況や芝浦工業大学の現況などを熟読して頂ければ幸いです。

さて、本年（二〇一七年）四月に建築学科は建築学部建築学科として新たなスタートを切りました。従来の工学部建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科（建築・空間デザイン領域）の二学科一領域を統合・再編して、開設されました。以前から、学部学科再編については二度、三度となく検討されてきましたが、本学創立九〇周年を迎えた本年、一学科三コース（SA、UA、APの三コース）で新しい建築教育の展開を目指して開設されました。さらに、一年生から四年生まで豊洲一貫教育を行い、幅広い知識と感性を養うとともに、本年四月には建築学科製図室棟も豊洲キャンパスに完成し、充実した設計教育が行われようとしているようです。建築会としても新学部・新学科の今後の成長・発展を祈念し、協力を惜しまない所存ですので、卒業生諸氏の御支援も宜しくお願い申し上げます。四年後には、従来の建築会と建友会（建築工学科の同窓会）の新たな統合・編成・取組みも不可欠になってきます。その際は、卒業生諸氏のご意見も反映できればと思っている次第です。

建築会は、現会則に基づき三年に一回ではありますが、総会・懇親会を開催することになっております。本年はその該当年にあたり、二〇一七年十二月九日（土）に開催する予定になっていますが、総会に合わせて約二時間の基調講演等を企画しております。一例を紹介しますと、建築学科の近況と新学部の紹介を学科主任の古屋先生にお願いし、さらに活躍する卒業生として二名の方にその一端をお話し頂く予定にしています（詳しくは別紙案内をご参照下さい）。懇親会では建築学科教員をはじめ、同期あるいは先輩・後輩の方々と久闊を叙して頂くとともに、お互いの近況を報告し健康を祝す会としたいと考えております。さらに、建築会の継続・発展のためにも貴重なご意見を賜り、かつ懇親を図って頂きたいと考えておりますので、お誘い合わせの上、できるだけ多くの方々のご出席を期待しています。

なお、役員・幹事一同は、より一層の建築学科卒業生相互の輪を広げ、絆を深めるためにも、主に以下の計画に基づいて活動を進めて参りますので、皆様のご協力を宜しくお願いする次第です。

○建築会会報（卒業生たより）の作成と発行
○建築会総会の開催と、建築会組織の結束の高揚
○会費の納入のお願い（運営資金が激減しています）
○役員・幹事就任のお願いと活動の活性化
○建築会ホームページの充実・更新
○学位授与式への出席と建築会奨励賞の授与
○学生支援の推進と、卒業生支援の検討　など

近況（一級建築士について）

江口武士郎（一九六三年卒）

昭和三十八年芝浦工業大学建築学科卒業で、七十七歳の年金生活者です。

私は江口仁吉の四人兄弟の二男で末っ子として育ちました。父は大工でしたが宮大工ではありません。家には何時も四人程の弟子がおりました。食事の時はいつも片膝を立てて食事をしていましたが、不思議には思いませんでした。我が家では何時もこうしていると母が言っていました。父は毎晩、晩酌をしていました。時々英語が出てきましたが、夜学に行っていたそうです。父が二十歳ぐらいの時、飯豊山（いいで）標高二一〇五メートルの一宮の祠の仕事がきて初めて登山をしたといっていました。一宮と言っていたのは鎖に掴まりながら登ったといっていたからです。鎖は頂上付近につけられているとのことでそうわかるのです。

芝浦には家の事情で受験する人がおおいようです。私もそうでした。父は私が大学一年のときに他界しました。四年間の授業は卒業できる単位の獲得で過ぎ、とても一級建築士の国家試験のことは考えがおよびませんでした。卒業後二年経ち、受験の時になってやっとその気になって問題集を買いました。法規は赤本の持ち込みが許されていたので準備は疎かになり、一度も法文を読むこともなく時間内には半分もできないありさまでした。あわてて研究室の石川洋美先生（元理事長）のところに行って頼んだところ、これをもっていきなさいと先生の赤本を渡されました。赤本にはインデックスが張ってあり、開くと空白部分はありません。全て鉛筆でかきこまれていました。勉強はこのようにするのかと目から鱗が落ちるおもいでした。法規は完璧でした。五科目を無事パスして製図は毎日図面を描いていたので自信はありました。

この年のクリスマスの頃に大阪の鹿島建設に勤務していた一年後輩の五十嵐君（現理事長）から電話でおめでとうございますと言われ咄嗟にありがとうと返事をしました。自分の結婚のことかと早合点してしまいましたが、どうして知っているのですか、と聞くと官報にのっていますよとのことで、ありがとうと言って電話を切りました。官報に国家試験に合格した人が乗っていることに気が付き、すべてカタカナの自分の名前を探すのに苦労しました。今年、社協のダイヤモンド婚申請をしてきました。

基準法が変わり三年毎の定期講習会の通知がきましたので、ついでに、昨今の一級建築士の受験事情をきいてみましたところ、五科目の受験対策講習会の費用は一〇〇万円で、それに合格すると製図試験対策費用は五〇万円とのことでした。ただおどろくばかりです。

追伸となりますが、建築工学科の赤堀先生からの報告でDOKOMOJPANから沖先生の宮図巣庁舎の建物が二〇一番の認定を受けられたとのことですので報告します。

【株式会社環境開発研究所／ＮＰＯ法人川口市民防災ボランチアネットワーク シルバー人材センター】

私の道程

鈴木誠司（一九六八年卒）

建築学科を卒業して五十年が過ぎました。この半世紀の間に大学時代の多くの親友が亡くなってしまったのは残念なことです。同窓会等で豊洲のキャンパスに行くたびに芝浦工大の教育環境が素晴らしくなっていることを心の中で彼らに伝えています。これは大学の教育、運営に携わって来られた諸先生の永年の御尽力の賜物と感謝申し上げます。

私が入学したのは田町にあった付属工業高校を併設したキャンパスでした。正面入口は重厚な昭和初期のタイル張りの建物でしたが講義室、研究室のある部分は灰色にくすんだコンクリート塊のまるで工場のような建築で少なからず落胆したものでした。しかしその建物での四年間は親友が何人も出来、一緒に色々な活動をし、錚々たる若手の先生に薫陶をいただく青春の素晴らしい時間になりました。

卒業後は嶺岸先生、吉田先生、橋本先生の御推薦を戴き東京芸大大学院建築科修士課程に進学しました。修士終了後は芸大建築科非常勤助手を務め、同じ助手になられた大学院一年先輩の永田昌民さん、黒川哲朗さんには仕事、遊び等を通じて芸大の心の様なものを学びました。また入学試験休暇を利用して黒川さんと大学時代の友達他五人で「四十五日間世界一周ツアー」に便乗して近代建築の三巨匠を始めガウディ、ルイス・カーン、ジェイムス・スターリング他の作品を訪ね、自分の目で見て、考えた経験は、その後の設計の仕事に大きな影響を与えられるものとなりました。

黒川さんと西荻窪で2年間設計事務所を経営した後、小田原に戻り設計事務所を開いて四十年になりました。その間、芝浦工大東大宮キャンパスで即日設計演習の講師を三年間務め、久しぶりに建築教育に参加し当時の教育について考えさせられました。企業に就職せず建築を作ること、自分で生活することで時が過ぎました。時間を作り海外に出かけ町、建築、遺跡を見に行くことは今でも続け、その記憶を絵に描いて個展を開くことを励みにしています。さらに少しでも良い建築環境を創ることを目指してこれからも物を造る道を歩いてゆきたいと思っています。

【株式会社シンケン設計事務所　所長】

長いスキー生活と長い学生生活

佐々木信孝（一九七三年卒）

昭和四十一年に建築学科に入学し、スキー部員でも在った私は、毎年スキーシーズンと後期試験時が重なると云う二重苦を味わうことになります。昭和四十四年、我が母校はインカレにて総合優勝を果たし、優勝者をスラローム二人、複合一人、他上位入賞者を多数出すことが出来ました。翌四十五年私はチェコスロバキアでの世界選手権に出場、各国を転戦後、帰国すると同級生は卒業し、学校は封鎖され、専らスキーに専念するしかありませんでした。昭和四十六年プレオリンピックと昭和四十七年札幌オリンピックに向けて、学業より選手活動を優先し、お陰様で札幌オリンピック複合競技に出場することが出来ました。ここで少しオリンピック試合当日のお話をします。競技前半のジャンプで日本の中野選手が八十四メートルのビックジャンプをし、私は唖然としました。八十四メートルは当時限界に近い飛距離で、シードでは上位であった私はその飛距離を上回り着地で転倒すると思い、我を忘れたジャンプで無様な敗北感を味わうことになりました。

さて、お祭りも終わり大学に戻るとスキー部で同級生の高橋武俊君も復学の手続きに来た所で、心強い仲間が現れこれからの学生生活が楽しみでもありました。復学後の時間は少なく、受講やレポート・卒論と、次々と単位取得の為走り回り、当時は助手であった枝広先生や同級生・後輩らの協力も有り、晴れて昭和四十八年に長い学生生活に終止符を打ち、卒業する事が出来ました。

卒業後は海外の家具製作会社や設計事務所を見たいと思い、フィンランドの家具製作会社アスコ社にお願いし、その年の暮れに日本を発ちアスコ社のデザイン室にお世話になりました。また、ボウレルマ設計事務所では設計補助の仕事をしていましたが、本格的に設計をやりたいと思い昭和五十三年春に帰国、先ずは身を固めようと結婚をすることにしました。その時の司会を枝広先生にして頂きました（彼は私の一年後輩で、復学後に師弟関係になりました）。その後、一般構造研究室の先生でもありました故佐藤宏輔先生のワコサ建築設計事務所にお世話になり、その後数ヶ所の設計事務所を経て独立し、現在に至っています。

早々に半世紀を振り返りましたが、私の時代は学業とスポーツとは別々の領域で有った様に思っています。工業大学としてスポーツを学業としたスポーツ工学や人間工学等々が有ってもいいのではないかと思っています。

【株式会社ＡＡＶＡ建築設計事務所　代表取締役】

金沢からの近況報告

鶴田謙一（一九七八年卒）

大学を卒業して地元の石川県金沢市に帰り、当設計事務所に勤めてはや三九年になります。県内の物件を多々設計・監理させていただきました。当事務所の受注は公共対民間の比率が近年民間が増え六対四程度に変化している状況です。住宅をはじめ福祉施設・病院・学校・幼稚園・文化施設・工場・店舗・マンションと多岐にわたります。公共においては受注の仕方も変化し、入札方式から主な建物はプロポーザルコンペ方式が主流となり、計画案だけではなく提案書やヒアリングの表現力が求められています。このようなプロポが最近民間の病院やオフィイス物件においても行われる状況で、設計で一番重要なコンセプトや基本構想の部分をプロポという名の無償行為（時には低額の報酬）で提案する状況が多々続くと、設計が非常に軽視されているのではと現状に疑問を感じつつ、今日も提案書を作成しています。

ここ金沢は平成二十七年三月の北陸新幹線の開業以来、市内の観光客が増え、平日でも主な観光地（東山茶屋街や兼六園、二十一世紀美術館、近江町市場等）では人があふれている状況です。また市内の中心部はホテルの建設ラッシュです。完成したらどんな金沢の風景となるのでしょうか、それぞれの金沢らしさとはどのような表現なのか楽しみです。

大学の時代は住宅ゼミに所属し、住宅を通して建築と向き合っていました。実務においては公共施設等大きな建物の計画・設計に従事してきましたが、住宅を設計するたびに、住宅こそ私の設計の原点と考え取り組んできました。そこには施主の生の喜びがあります。これからも『金沢らしさとは何か』を求めて常に新しい計画にチャレンジする楽しさを感じつつ、後輩がしっかりと大成するよう育てる事が自分に与えられた一つの使命と考え、ここ金沢で取り組んでいきます。

【株式会社浦建築研究所】

グローバルエンジニア

志村太（一九八三年卒）

昭和五十八年に卒業し、清水建設に入社した志村太と申します。

大学時代は旧生産研究室に間借りしていた当時まだ助手の枝広先生（今では立派な教授になり、一昨年見事に退職されましたが）の指導の下、繊維補強コンクリートについて研究していました。枝広研究室（当時、そんな名前は

正式にはありませんでしたが）の仲間は七名在籍していました。田町ボールでボーリング、草野球、越後湯沢でのスキーと爽やかにスポーツを楽しんだ一方で、多くは間貸していた研究室で暴飲の日々を過ごした記憶が残っています。今でもその七名とは枝豆会、枝広先生の送別会や先日開催された芝浦工業大学創立九十年記念の総会、その時についでに開かれた枝豆会にも全員参加し今でも交友が続いています。

卒業後、清水建設株式会社に入社することができ、施工管理として広島支店に足掛け十二年お世話になり、一九九五年には海外へ羽ばたきました。赴任地はマレーシアクアランプールで、市内はモノレールや高層ビル群の建設ラッシュでした。そこでの業務は、すべて英語での対応と契約管理。そこで強く感じたことは、日本人の英語レベルの低さと、日本が標準でなく、世界の中では、特別な国だと実感しました。その後、建設ラッシュが起こる以前のドバイへ一人（実は家族とも）飛ばされ、約一年間優雅に過ごしてきました。しかし、修業が足りずとのことで、国内に戻され五年間の修業を積み、懲りずにまた海外を希望して台北に赴任になりました。台北が性に合い、日々豪遊したせいか、病気になり強制帰国。今は国際支店の建築技術部・安全環境部の部長として、海外工事の縁の下の力持ちとして工事を支援しています。

こうして足掛け十六年、海外に携わっている者としては、芝浦工業大学がスーパーグローバル大学に認定され、国内外の学生をグローバルエンジニアとして育成する活動をうれしく思っています。今後、芝浦工業大学の卒業生が世界で活躍することを待ち望んでいます。

【清水建設株式会社　国際支店　建築技術部兼安全環境部 部長】

近況報告

鈴木裕之（一九八八年卒／一九九〇大学院修了）

二〇一五年八月末、大学・大学院を共に過ごした柏高出身の村田浩君が五十を前に亡くなりました。その訃報を附属第一高校の先輩であり前建築会長の鈴木 泉さんに久しぶりに連絡を取った縁で、今回の寄稿となりました。感謝すると共に、村田君への哀悼の意を表したいと思います。

振り返ると義務教育以降の九年間を全て芝浦工大で過ごしました。当時、芝浦校舎内にあった付属一高最後の卒業生となるのですが、この高校は大学校舎を間借りしていたため、校舎の廊下でタバコをふかしてる大学生とすれ違ったり、生協で大学生と同様に食事をしたり買物をしたりする不思議な空間でした。

中学時代ほとんど勉強する習慣がないまま附属一校に入学。当初は成績も悪く、このまま推薦枠に入れなかったら今の何倍も勉強しないと大変！　と一念発起。なんとか第一志望の建築学科に入学できやれやれ。しかし、大学入学後も一般受験生とは出来が違いここでも大変！　「東大宮は遠くて嫌だ！」との思いから、二年で何とか田町に戻りました。大学院も、「就職なんてまだしたくないなぁ」ってな感じで滑り込み進学。周りを見渡すと優秀な同級生ばかりでしたので、しっかり研究室の雰囲気に染まり引っ張り上げてもらいました。J-WAVEの試験放送が懐かしいです。

就職活動では、これから六十まで過ごすであろう場所なので、何日も学生センターに通い、募集要項を眺めまわしまし、「外国はいいが地方に行きたくない」といったところから某マンション建設会社の内定を頂きましたが、石川先生に「もう少し考えろ」とのご指導を頂き、今大変な某電力会社と野村不動産を内定し現在に至っております。

周りのゼネコン設計部に行った同級生と比較すると文系の会社のせいか異動は多いようで、戸建商品開発から始まり、注文住宅営業設計、戸建法人営業、マンション企画、分譲戸建企画、マンション販売、マンション事業スタッフ、アフターサービス、集中購買、そして現在は商品戦略部にて、調査分析関連からグッドデザイン賞まで、多岐にわたり携わっております。

芝浦、豊洲校舎へ訪れる機会は多々あるのですが、先日、旅行の帰りに大宮校舎へ三十二年ぶりに訪問しました。新しい校舎の間に懐かしい校舎もしっかり残っていて感慨深かったです。警備員の方々にはとても丁寧にご対応頂き感涙の思いでした。

さて、最近建築と建工が一緒になって東大宮通学が無くなったとか。工学部から独立し建築学部になりデザイン工学科も合流したとの事ですが、これからの少子化の時代、母校が衰退する事の無いよう、九年間芝浦工大で過ごしたOBより全役職員の皆様へ、激励をさせて頂き終わりとさせていただきます。

【野村不動産株式会社　商品戦略部】

用と強だけ。建築に近付けるためにあがいています

中谷隆弘（一九九八年卒）

私は設計事務所を主宰していますが、住宅などの設計の他、数年前から集合住宅のデザイン監修も行なっています。他の事務所が設計した集合住宅に対し、外壁材のコーディネートやエントランスを再デザインすることがデザイン監修の主な内容です。アトリエ系設計事務所で設計とデザインを同時に検討する事を学んできた身としては、その様な設計から分離した後付けのデザインに関し、当初はどのように考えたら良いのかとても戸惑いました。

設計を担当した事務所へのヒアリングでも、床面積や戸数の最大化、経済性優先の構造や階高など与件に関しては詳細に説明してもらえましたが、おおよそデザインに関連する回答はありません。デザインは後付けでどの様に考えてもらっても構わないとの事。ウィトルウィウスは、用・強・美の三要素から成るものが建築だと定義しているのですが、この設計内容には美の要素が見当たりません。つまりこの定義からすると、建築では無く、物理的な意味でのただの建造物という事になります。建築では無いとの認識でアノニマスなデザインを行う事にすれば少しハードルが下がるかもしれませんが、実際には住宅などの小建築よりは、規模的に景観や街並みに与える影響は多大なものがあり、やはり建築的な視点によりデザインを検討する必要がありそうです。そのため周辺環境のコンテクストを手掛かりに、石川研究室時代の場所性のリサーチ手法を活用しながらデザイン監修を行いました。

建物全体を設計している訳ではないので印象として劇的な効果は無いかもしれませんが、少なくとも原設計の「ただの建造物」が、コンテクストを反映したデザインにより「建築」に近付いたモノとして街並を形成する存在の一つになってくれていると考えています。

私が依頼される仕事には、この様な建築的では無い建物に関するものも少なくありませんが、無理の無い範囲で建築に近付ける工夫を施すことも設計事務所の責任であるのではないでしょうか。

【エヌエヌスタジオ一級建築士事務所】

印象に残る作品について

小川文象（二〇〇三年卒）

私は現在、広島を拠点に建築設計をしております。また、二〇一五年から建築学科の非常勤講師もさせていただいております。現在の設計事務所を設立してから十年目となりますが、これまで全国各地に、公共、民間問わず、大小様々な建築を計画してきました。その中で特に印象に残っている三つのプロジェクトのことを書きたいと思います。

「広島市公園トイレプロジェクト」は、独立後最初に取り組んだコンペで最優秀賞をいただき、実施した計画です。市民の憩いの場である街区公園のトイレの市の標準デザインをコンペで決めるという画期的なコンペでした。ここで私は量産されていくことを前提に、都市の中に遍在する基軸を埋め込むというコンセプトで、北向き屋根をもつトイレを提案しました。現在、市内二二箇所の街区公園に設置されており、地域住民の愛着と共に、まちの原風景になっていくものと期待しています。

「Miss Hiroshima」は、広島市の本通りというメインストリートの一等地に建つ商業ビルの計画です。創業百年の婦人服店を閉店し、その遺伝子を組み込みながら未来へ向けて新たなビルに置き換えていく必要がありました。また、向かい側に建つ被爆建物との対比を生み出すことで、まちに時間軸をつくることを意図しました。鳥籠のような構造によるファサードは広島のまちの表層を一変させることが出来たと考えています。

「道の駅なぶら土佐佐賀」は、プロポーザルで選定された高知県の計画です。まちの悲願であった道の駅の計画で、選定後すぐに、地元の皆さんと想いを共有していく必要がありました。様々な立場の人の想いをまとめていくことは、非常に難題でしたが、とても良い経験になりました。今では、「かつおの塩たたき」が美味しい道の駅として、地元の皆さんや観光客によって賑わう施設となっています。

他にも住宅等も手掛けますが、私は不特定多数が利用する建築にやりがいを感じます。今後も、市民の意識を変えることができる建築を生み出していきたいと思います。

【FUTURE STUDIO 代表】

建築するジレンマ

田口 誉（二〇〇八年卒）

あと三年後にはオリンピックが東京で開催される。昨今の建設業界は新築、改修が相次ぎ、一見、盛り上がりを感じさせているが、ニュースで取り上げられるのは建設費用が高く、金の無駄遣いが指摘される肩身の狭い思いも感じている。自分が大学を卒業して社会に出た時は東日本大震災が起きた年であり、日本中が元気を無くして建設業界は復興支援作業を急務とし、どこか新築の大きな建築物が立つことに、冷ややかな目を向けられていたと思う。

社会に出た自分はこの七年間で、ここ数年のネガティブさとポジティブさを感じながら、建設業界はいつでも社会にとって肩身の狭い立場であると感じ、同時にその原因は経済的な側面に固執しているものだなとも感じられた。ただ、この七年間で複数の建物の竣工を見届け、その瞬間だけはいつも祝福された場所であり、建築物を造ることのやりがいを感じたことも確かである。

建物は経済的に良くも悪くもインパクトを与え、出来てしまえば瞬間的に祝福されるが、建物そのものが社会に与える影響を気にする者は少なく、風化されやすいものな

のかもしれないと感じている。

これから三年後のオリンピックに向けて中心である競技場の設計を担当する事務所に身を置く自分は、今貴重な時間を過ごしていると感じる。これまで建物のことなど口にしていなかった人たちも弊社の名前を挙げてSNSに建物の画像を貼り付けてはつぶやいている。万人に弊社の建物が批評されながら設計をする気分というのは、刺激的であり、自分が抱えていたジレンマに突き刺さる感じがあった。この感覚を一建築家の一プロジェクトとして終わらずに、未来の建設業界にとって還元できるキッカケになればというのが今の自分のモチベーションかもしれない。

【隈研吾建築都市設計事務所】

やりがい　生きがい

星川　裕（二〇十三年卒）

私は卒業後、地元埼玉を中心に建築確認検査業務を行っている一般財団法人さいたま住宅検査センターに入社いたしました。学部生時代は構造系の岸田研究室に所属し、真夏の真っ只中に実験データ採取のため大汗をかきながら研究室の仲間と実験室に缶詰になったのは、今となっては清々しいほどのいい思い出です。仕事柄、事務所内を走り回ることはあっても大汗をかくことは少なくなってきましたが、そんな私の社会人になってからの日々を少しお話ししたいと思います。

○建築確認検査業務

学部生時代、構造系のゼミ・研究室にいたにもかかわらず建築法規の授業でしか触れなかった建築基準法をメインに仕事を行う道を選んだのは、学部三年の時、インターンシップにて現場監督の仕事を体験し、建築基準法の中間検査に立ちあった際にこの業界を知ったのがきっかけでした。

入社後、実際に働き始めた頃の心境を正直にお話しすると、入社前に抱いていたイメージとは若干の相違がありました。元々行政庁のみが行っていた建築確認検査業務に少々堅いイメージを抱いておりましたが、実際は、いかに申請者と密にコミュニケーションをとって柔軟に対応するかが求められる仕事でした。申請者・設計者と法解釈の議論を交わし、様々な法的手法を検討していくことが建築物の竣工するまでに無くてはならない仕事です。申請者とのコミュニケーションをとり物件に深く係っていくほどに大きなやりがいを感じられる仕事だと私は感じております。

○休みの私

日ごろデスクワークを多くしている反動からか、休日は幼い頃所属していた地元のミニバスケットボールの指導者として汗を流す日々を過ごしております。私が所属している団は勝つための指導を行うのではなく、生涯スポーツという視点から「スポーツ好き」を育むことを目標とした活動を行っております。そういった活動方針が珍しいのか、近頃入団希望者がとても多くなり仕事以上に大変な時期もありました。しかし、私が過去にこの団で学んだように、楽しく仲間と汗をかき、喜びを共有し、良好な人間関係を築く力を子供たちに教えていくこと。これが今の私の生きがいとなっております。

【一般財団法人さいたま住宅検査センター】

近況報告

和氣美枝（一九九四年卒）

私は新卒で当時マンションデベロッパー最大手の大先輩の会社に就職し、その後社長の引退とともに同業他社に転職し、介護離職するまで十五年間マンションの企画設計・現場管理等の仕事をしていました。そして今は、建築とは程遠い「介護者支援」を生業としています。サラッと「介護離職」とか「介護」という言葉を出しましたが、三十二歳の時から母の介護に携わっています。今年で十四年目です。

介護者支援の「介護者」とは家族や大事なひとの介護を無償で行っている人のことを言います。介護従事者のことではありません。

なぜ「介護者」「支援」を「生業＝事業」としているのか、ということを書くと宿題の文字数では収まらないので書きません。現役の介護者が自らの経験をもとに「介護離職防止」を生業としている人間が私の知る限りでは日本で私しかいません。なぜならばこれは魂を削る作業だからです。なぜそんなドMな活動をしているのか、その理由に興味のある方もお問い合わせください。

ということでそんなドMな人間であるがゆえに、各種メディアでの執筆や経団連や連合、省庁・自治体さらには大手から中小企業まで様々な団体からお声掛けいただき講演会などをさせていただいております。昨年は毎日新聞出版から書籍「介護離職しない、させない」を出版させていただきました。

ひとつだけまともなことを。現在の「働く」と「介護」の根底にある課題は「介護保険の一般常識化の遅れ」があります。「病気になったら病院に行く」が当たり前のように「介護になったら地域包括支援センターに行く」を当たり前にしていかなくては、介護離職はもとより痛ましい事件事故は減らないでしょう。ということで、その元凶に気づいてしまった私と私に触れてしまった（この文章を読んでしまった）方々は、後世のためにもこの「介護保険の一般常識化」を推し進める必要があります。我が家の介護が始まって以来、何も変わってない社会現象がこれです。つまり、今、行動を起こさない限り、十年後も同じように「介護になったらどうしたらいいの？」と多くの方が不安にさいなまれるでしょう。では、介護保険の一般常識化を図るために私たち大人はどんな行動をしたらいいのか。簡単です。SNSをやっている方は今この瞬間「介護になったら地域包括支援センター」とつぶやいてください。明日、会社にいったら隣に座っている同僚に「介護になったら地域包括支援センター」とつぶやいてください。ひとり一人以上に伝えてください。このねずみ講方式で介護保険の一般常識化を現場から浸透させていく、これが活動家として日々取り組んでいることです。

【一般社団法人介護離職防止対策促進機構 代表理事
兼ワーク＆ケアバランス研究所主宰】

デザインチャンピオンシップ二〇一六

第十五回を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇一六年の芝浦祭期間中の十一月四日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇〇二年より始まった建築学科主催の建築設計コンペです。毎年、外部講師をお招きして、七月に出題とご講演を、十一月の学祭期間中に合わせて公開審査と作品展示を行います。二〇一六年は京都造形芸術大学大学院教授の堀部安嗣先生に出題いただきました。堀部先生は、堀部安嗣建築設計事務所を主宰されている著名な建築家であり、ちょうどこの年に、手がけられた建築作品「竹林寺納骨堂」で建築学会賞を受賞されました。

『これまでを見つめた、これからの住宅』という出題に対し、建築学科をはじめ、他学科、大学院から総勢五十八組の応募がありました。パネル展示の一次審査、公開プレゼンテーションの二次審査を行い、建築学科三年生チームの作品「ATTIC HOUSE」（嶋田康志さん、堀場陸さん）が最優秀賞に選ばれました。その他の受賞者は下記の通りです。審査終了後は、製図室で授賞式と懇親会を行い、大いに盛り上がりました。建築会ではこのイベントの後援を行いました。

この会報が届く頃、二〇一七年十一月五日にデザインチャンピオンシップ二〇一七が開催されます。今年度の出題と審査は、建築家の新居千秋先生です。豊洲キャンパスの建築学科製図室で行いますので、是非、学生の奮闘ぶりをご覧にいらして下さい。

デザインチャンピオンシップ二〇一六の受賞者

（学年は昨年の受賞時）

□最優秀賞　「ATTIC HOUSE」

嶋田康志、堀場陸（建築学科三年生）

□優秀賞　「農シェア家 これからの農地の残し方」

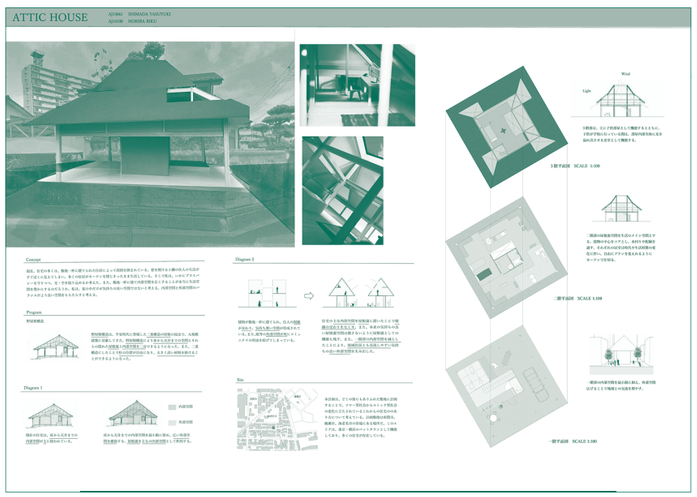
関本容子（建築学科四年生）

□優秀賞　「境壁を縫う」

川俣洸介、高橋友洋（建築学科四年生）

□佳作　「地中庵」

鎌田悠輔、川本康太、出張翔士、早川天平
春原百花、三島圭人
（大学院建設工学専攻二年生）



最優秀賞「ATTIC HOUSE」

卒業生による業界研究セミナー二〇一七

建築学科主催の業界研究セミナーが二〇一七年一月十八日（水）に開催されました。卒業生を招いてのセミナーは、二〇〇四年から就職セミナーとして始まり、業界研究セミナーと名称を変えながら今回で十三回目の開催となりました。建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさ、自身がどのように進路を選んだか、今日につながる学生時代の印象に残る思い出等、後輩にだからこそ伝えられる内容を率直にお話し頂きました。

卒業して数年から十年ほどの若い先輩方のお話は、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える上で大変参考になったようです。学部生、大学院生共に多くの学生が参加して、学生からの質問も数多く出されて盛況なイベントとなりました。

講演者プロフィール

□施工分野　上田大裕（うえだ まさひろ）
二〇〇五年　枝広研究室
現職社名　大成建設株式会社
現職部署　東京支店建築1部
業務の内容　現場施工管理

□意匠分野　原嶋 宏樹（はらしま ひろき）
二〇〇六年　堀越研究室
現職社名　鹿島建設株式会社
現職部署　建築設計本部
業務の内容　建築設計

□構造分野　足立幸多朗（あだち こうたろう）
二〇〇七年　岸田研究室
現職社名　株式会社安井建築設計事務所
現職部署　東京事務所　構造部
業務の内容　構造設計

□設備分野　水村 圭介（みずむら けいすけ）
二〇一〇年　西村研究室
現職社名　株式会社大林組
現職部署　東京本店　建築事業部　設備部
業務の内容　設備設計

□官公庁　城向 咲（じょうこう さき）
二〇〇八年　南研究室
現職社名　横浜市
現職部署　建築局建築環境課
業務の内容　CASBEE等、建築環境の認証に関わる業務

建築学科の近況報告

古屋 浩（教授／二〇一七年度工学部建築学科主任）

学科の近況をご報告させていただきます。ご承知の通り、この四月に建築学部が開設され、これまでの工学部三年生・四年生に今年は建築学部の新一年生が加わり、賑々しく豊洲校舎における都心一貫教育がスタートいたしました。中庭に設置された新製図室棟（アーキテクチャープラザ）を拠点とする新学部三コースの新入生諸君はもちろんのこと、同じ校舎に新たに後輩を迎えることになった三・四年生も、これまでになくイキイキと大学生活を頑張っているように思います。また、八月には例年通り、オープンキャンパスも開催され、多くの高校生が芝浦建築に期待を持って集まってくれました。

さて、二〇一六年度の学位授与式は、三月十七日に東京国際フォーラム（千代田区有楽町）にて執り行われました。建築学科第六十回卒業生として九十五名（内四十四名進学）の若者が巣立って行きました。また、卒業記念パーティがザ・ペニンシュラ東京（千代田区有楽町）にて行われ、枝広英俊建築会会長よりご祝辞をいただくとともに、学生幹事十二名に建築会より記念品が贈呈されました。二〇一六年度各賞の受賞者並びに卒業研究（論文・設計）の題目は以下の通りです。

□学業成績　最優秀賞・総代
九里そよ

□学業成績　優秀賞・有元賞
高橋昂平

□学業成績　優秀賞（五十音順）
秋山智香／小川光陽／川俣洸介／後藤圭佑／
松原なつみ／森下貴文

□卒業論文　優秀賞（五十音順）
井上巧皓「無垢木材を使用した遮音直床構法の
開発と性能評価」
佐藤滉起「接着系あと施工アンカーに使用される
接着剤の性能評価および
検査手法に関する検討」
瀬戸麻莉乃「光散乱式粉じん計の較正に関する研究 -
多分散粒子を用いた場合の検討-」
藤田鋭志「コンサートホール音場における響きの
質感と後期反射音の時系列情報の関係」
松原なつみ「牛嶋神社の氏子とまちづくりの
組織に関する研究」

ザ・ペニンシュラでの卒業パーティー（2017年3月17日）

□卒業論文　優秀賞・浜田賞（五十音順）
小川光陽「剛接化可能な耐震補強金物の
開発に関する研究」
袴田純平「部分的に高強度化した鉄筋を用いた
鉄筋コンクリート有孔梁に関する実験研究
-孔上下補強筋の配筋による検討-」
光原恵太朗「鋼管杭基礎の地震時応力評価法の研究」

□卒業設計　最優秀賞・三浦賞
高橋昂平「三つ子の魂百まで
-国際社会における子どもの居場所-」

□卒業設計　優秀賞（五十音順）
小川綾乃「名残のタテウリ
-ベッドタウンにおける故郷の形成-」
長谷川由佳「まちを継ぐjunction
-再開発における商店街の継ぎ目の設計-」

□卒業設計　特別賞（五十音順）
川俣洸介「Re-creation-農村の未来を創造する-」
山中森「交の鉢」

二〇一七年度の入学式は、四月三日に東京国際フォーラム（ホールA）にて行われ、建築学部の第一期生（二七一名）を迎えることができました。数年前からイベントとして組み込まれている東京フィルハーモニー交響楽団のすばらしい演奏が、今年もまた入学式に華を添えてくれました。

学科内におきましては、濱崎仁先生が今年度教授に昇格され、また原田真宏教授が二〇一七年日本建築学会作品選奨（題目：「海辺の家」）を、小澤雄樹准教授が二〇一七年日本建築学会著作賞（題目：「二〇世紀を築いた構造家たち」）をそれぞれ受賞されました。

今年は、建築学部一年生と工学部建築学科の三・四年生が豊洲に、そして工学部建築学科の二年生だけが大宮校舎にという変則形になっておりますが、まずは東京オリンピック開催年でもある二〇二〇年の新学部完成年度を目標に、一歩ずつ前へ進むことができればと考えております。

教員一同、芝浦建築の歴史・伝統を継承しつつ、さらなるプレゼンス向上を目指して教育・研究に邁進する所存でございます。今後とも、建築会会員の皆様にはご支援を賜りたく、何卒ご厚情のほど宜しくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

建築学部開設記念式典の様子（2017年4月11日）

芝浦工業大学　建築会

平成29年度　第12回定期総会と記念講演会・懇親会のお知らせ

□日時　平成29年12月9日（土）　13:30～18:00
□場所　芝浦工業大学　豊洲キャンパス　交流棟501教室、及び、交流棟3階カフェテリア
　　＊懇親会費は5,000円（2016、2017年卒で入会金納付者および在校生は1,000円）とします

第12回建築会総会　受付13:30～　総会14:00～14:30

□司会　鈴木 泉（1986年卒、建築会事務局長）
□会長挨拶　枝広英俊（1971年卒、建築会会長）
□議事進行　議長：辻村 建（1971年卒、建築会常任幹事）／書記：安藤 毅（1996年卒，同）

記念講演会　14:30～16:30

□場所　交流棟501教室
□司会　功刀 強　（1976年卒、K&K都市建築設計事務所）

□第一部　基調講演（14:30～15:10）
　工学部建築学科主任　古屋 浩 教授
　「建築学科の近況と新学部の紹介」

□第二部　活躍する卒業生からのメッセージ（15:20～16:20）
　①増山 栄（1972年卒／浜田研、増山栄建築設計事務所代表）
　　茨城県建築文化賞 知事賞を受賞して・・・土浦市立都和小学校

　②山嵜一也（1998年卒／衣袋研、2000年大学院終了／石川研、山嵜一也建築設計事務所代表）
　　都市をプレゼンするために必要なオリンピック競技場の作り方
　　～ロンドン五輪で働いた日本人建築士から2020年東京五輪へのメッセージ～

懇親会　16:30～18:00

□場所　交流棟3階カフェテリア
□司会　道田 淳（1993年卒，建築会副会長）、長谷部美紅（2012年卒，建築会幹事）
□会長挨拶　枝広英俊（1971年卒，建築会会長）
□乾杯　田口継道（1964年卒，建築会顧問）
□歓談　来賓挨拶、現教員挨拶、OB教員挨拶、卒業生代表挨拶等
□閉会挨拶　松寿　章（1978年卒，建築会副会長）

皆様のご参加をお待ちしております！　参加をご希望の方は、氏名・卒業年・連絡先を明記の上、下記までハガキ、FAX、E-mailのいずれかでお申し込みください。
締切　：11月16日（木）
申込先：〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5　芝浦工業大学 建築学科内 建築会事務局
FAX　：03-5859-8401
E-mail: sit_arch@yahoo.co.jp

二〇一七年度 建築会費納入者

二〇一七年度の建築会会費（二千円／年）納入者の卒年と氏名を下記に紹介させて頂きました。皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存でおりますが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。　（役員・常任幹事一同）

元教員　塘 直樹
昭22　北山利夫
昭23　村松誠一
昭25　岩瀬定保
昭26　梅津英夫
　　瀧村治雄
　　武蔵邦久
＊工経建　澁木昭一
　　平野雅昭
昭33　岩井延雄
　　加藤國雄
　　鎮旗義章
　　鈴木 健
　　勢〆和
昭34　藤内哲雄
　　岡本嘉行
　　菅野茂一
　　久保田尚
　　横山達男
昭35　大津留寛郎
　　真塩浩一
昭36　生沼善左
　　大浦喜八郎
　　刈谷靖彦
　　倉沢寿朗
　　小山正栄
　　佐藤勝利
　　新村 浩
　　湯澤守孝

昭37　笠原彰夫
　　小林 功
　　宮嶋徳重
　　室 俊彦
昭38　大平俊夫
　　東郷 豊
　　吉田 勇
　　吉野矩久
昭41　石鍋元章
　　大蔵 久
　　小澤良明
　　林 清武
昭42　阿部泰資
　　伊藤千秋
　　今関義輝
　　押井秀夫
　　河井 洋
　　小路敏彦
　　佐藤久松
　　菅原光彌
　　棚岡 薫
　　手島美博
　　豊岡幸夫
　　山下健一
昭43　井家常雄
　　大塚家光
　　曽根 稔
　　豊田貴彦
　　中村純雄
　　山崎 毅
　　山村亜男

昭44　春日芳子
　　狩野三雄
　　北川 亨
　　久保崎文枝
　　染谷 清
　　鶴巻智信
　　早川 昇
　　平沢 勇
　　松谷福三
　　米澤 稔
昭45　阿部安行
　　家本喜久雄
昭48　小林昌彦
　　佐藤元一
　　成毛弘治
　　丸山寿一
　　山本 勇
昭49　枝広英俊
　　唐沢 勉
　　河合 誠
　　木谷和俊
　　久米 勝
　　古藤充昭
　　須田昌孝
　　辻村 建
昭50　橋本貞章
　　福田俊次
　　堀木 高
昭51　峰岸 厚
　　宮本裕義
　　山田 洋
　　和田伸一
　　渡部 精
昭52　阿武隈川修
　　新井純治
　　伊津道人
　　猪原幸生
　　緒方 光
　　佐藤文俊
　　猿渡一雅
昭53　瀬口啓一

　　玉井賢一
　　長井義明
　　永海文治
　　永峰達雄
　　西村 修
　　橋口房雄
　　増山 栄
昭54　松田悦朗
　　宮本 博
昭55　美原陽太郎
昭56　川島 聡
　　村田 優
昭57　石山則広
　　亀甲将実
昭58　鈴木秀幸
　　戸山芳一
昭59　野崎喜一郎
　　岩瀬 繁
昭60　枝広秀子
昭61　加治喜久夫
　　河村和明
平1　川本勝一
　　能村博史
　　水口和幸
　　山口登司
平2　小林 中
　　齋藤修一
　　斎藤三保
平3　中野隆夫
　　伊東昭博
　　齋藤喜義
平4　菅原紀昭
　　早川金光
平7　天羽英雄
　　金岡 敏
平9　笹本昌代
平10　秋山達哉
平11　竹原基好
　　寺門慶二
平14　西村一孝
平16　林田和雄
　　糸井規雄
平18　清川健司

　　佐々木隆
　　田浦英典
　　田口昌男
　　月居利久
　　富安伸好
　　弓達和彦
　　今村 司
　　笠井義文
　　美原陽太郎
　　川島 聡
　　村田 優
　　大崎関男
　　宮下 俐
昭58　大竹昌彦
　　千須和正夫
　　小林さゆり
　　久本雅義
　　平林重徳
昭61　小山 滋
　　鈴木 泉
平1　進藤浩幸
　　高山直明
　　藤田武志
　　山下浩司
平2　砂野公一
　　川口英樹
　　郷田修身
平3　鈴木 剛
　　古川達也
　　吉本竜也
　　石久保猛
　　谷津 香
　　小山美智恵
平7　早川金光
　　須賀研太郎
平10　秋山達哉
平11　片桐 恵
　　古市隆志
平14　正林一紀
　　森本和生
平16　井上慎介
平18　守屋 仁

平22　加藤優一
平24　木村康孝
　　長谷部美紅
平25　川嶋裕司
平27　多久和大海
　　山下海斗
平28　住谷 司
　　田中天笙
　　福山ふみの
　　松永彬利
　　松本隼人
平29（入会金：三千円）
　　浅井蓮見
　　阿部京樹
　　安念大樹
　　飯塚雄樹
　　磯 涼平
　　伊藤 健
　　伊藤正樹
　　井上巧皓
　　今井誠風
　　岩崎一暉
　　梅津裕太
　　扇沢拓也
　　大久保憲一
　　大澄慧悟
　　大嶽理人
　　大西隼平
　　小川航輝
　　勝俣輪行
　　加藤 祐太郎
　　河上大雅
　　神崎 潤
　　岸田尚大
　　久保田智子
　　後藤圭祐
　　紺野雄輔
　　斉藤有生
　　佐藤滉起
　　清水 歩

　　高桑 遼
　　高橋友洋
　　武田 恭明
　　中嶋優太
　　藤田鋭志
　　藤本亮太
　　松永健生
　　村井雄稀
　　山垣内裕晃
　　若桑庫司
　　渡辺 薫
　　渡辺 謙

＊卒年欄で、工経建とは昭和30年卒。

会費納入のお願い

前年度の決算は左記の通りとなっております。年会費は、建築会にとって一番大きな収入源ですし、今年度からは新体制の元、引き続き会報の刊行費用、学科との共同事業などに頑張って参りますので、**年会費納入につきましては、一層のご理解とご協力をお願い致します。**

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千円をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

編集後記

今号も、お忙しい中、原稿を快諾して下さった卒業生の皆様、先方、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。第三十三号では、卒業生の皆さまの近況をお知らせすると共に、この春より動き出した建築学部・建築学科の産声をも誌面でお伝えすることができ、一卒業生として大変嬉しく思っています。

さて、来る十二月九日（土曜）は、私たち建築会の一番大きなイベントであり三年に一度の『建築会総会・同窓会』が開催されます。前半の記念講演会では、建築学科主任教授より建築学科の今と新学部の説明をお願いしています。それに引き続き、卒業生を代表して二名の方に、設計事務所での素晴らしい経験や、ロンドン五輪に関わった経験から東京五輪へのメッセージなど、盛りだくさんの内容をお話いただく予定です。そして後半は、お楽しみの懇親会です。

つい先日までは、建築学科創設六〇周年記念で頭がいっぱいでしたが、イベントを開催し、記念誌を出版するなど、節目をつけてすぐに新しく始まる母校の歴史に立ち会えることができ、幸せを感じています。十二月九日（土曜）は建築学部の開設や豊洲校舎での一貫教育を目にすることができるまたとない機会ですので、どうぞお誘い合わせの上、お越し下さい。思い出を語るのはもちろん、我ら建築学科の新しいスタートを皆さまと共にお祝いすることを何よりも楽しみにしております。

道田淳（一九九三卒）

2017年度　会計報告

（2017.7.31現在）

収入	繰越金	銀行預金（記念誌事業）	869,268
		普通貯金（会費受入口座）	992,404
		現金	189,502
		（小計）	2,051,174
	年会費振込（会員）2,000円×221名		442,000
	年会費振込（新会員）3,000円×40名		120,000
	寄付		39,000
	預金利子		8
	60周年記念事業貸出金回収A（郵便貯金）		158,500
	（小計）		759,508
	計		¥2,810,682
支出	会報第32号印刷費（5,200部）、封筒		343,303
	払込取扱票／出欠はがき（4,700部）		
	宛名シール（4,632枚）		54,000
	（発送料）4,632通×81円		375,192
	会報デザイン校正料		108,000
	ホームページ維持費		112,751
	事務費　振込手数料		2,888
	デザインチャンピオンシップ支援		48,316
	卒業生記念品		62,964
	学位授与式御祝い金		20,000
	建築学部開設記念式典生花		21,600
	計		¥1,149,014
次期繰越		普通預金（記念誌事業）	809,096
		普通貯金（会費受入口座）	753,066
		現金	99,506
	計		1,661,668
支出＋次期繰越金			¥2,810,682

建築学科六十周年記念誌のご購入申込みのご案内

建築学科創設六十年の主な変遷、歴代教員・卒業生の寄稿、建築学科の近況、記念式典の記録などを纏めた一冊（約二〇〇頁）。お求めの方は、左記の要領にてお申込み下さい

◎申込先　芝浦工業大学 建築学科内 建築会事務局
〒一三五ー八五四八
東京都江東区豊洲三ー七ー五

◎申込方法　現金書留による申込み、または会費納入時の郵便振替用紙による振込み

◎記念誌代　三五〇〇円（但し、残部が二〇〇冊の為先着順とさせて頂きます。）

◎申込期限　二〇一七年十二月末日